

公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

研修報告書 (2016年度 助成者)

作成日 2016年9月16日

氏名	星野 奈生子
研修先機関名	<u>Hawaii Tokai International College</u>
研修期間	2016年8月15日(月)～20日(土)
大学名 学年	岐阜大学 5年

JANAMEF の皆様、Medical English を担当して下さったアメリカ人の先生方・ハワイ大学医学部 (JABSOM) の先生方、同行して下さった東海大学・神戸大学の先生方、History Taking で患者役をして下さった JABSOM の医学生の皆様、HTIC のスタッフの皆様、プログラムに参加した他 23 名の日本の医学生の皆様、その他お世話になった全ての方々はこの場を借りて心よりお礼申し上げます。

私がこの Program に参加した目的は、1. 年明けに米国でポリクリの実習をする準備としてアメリカ式の History Taking や Case Presentation の仕方を身に付ける、2. このプログラムで獲得した Skill や学習した内容を USMLE の、特に USMLE step 2 CS の対策に繋げる、3. 今後の英語学習の方向性を確認する、4. 海外医療に興味のある他大学の医学生の皆様と情報交換をする、の 4 つでした。

Program 中は Honolulu 市内から車で 30 分程の Kapolei 地区にある HTIC の寮に皆で宿泊しました。Program の大まかなスケジュールですが、まず午前中は毎日、寮の隣にある HTIC の校舎で、24 名が 2 班に分かれ Medical English と Medical Ethics の講義を交互に受けました。最終日の午前中は Medical Ethics の授業中に行った Discussion の内容を 6 班に分かれて Presentation しました。午後からは毎日 Honolulu 市内に出かけて、市内の Clinic や Hospital、JABSOM の Cancer Research Center の見学を行った後、夜からは同じく Honolulu 市内にある JABSOM の校舎で Evening Lecture と Clinic Practice の授業を受けました。その他、Special Lecture としてハワイでご活躍されている日本人の先生方からご自身のキャリア等についてお話を伺う機会もありました。毎日朝 8:30 から夜 21:00 まで非常に濃密なスケジュールを過ごすことができたお陰で、ここで、詳しくは述べませんが、今回の私の目的は概ね達成することができたと言って間違いありません。

午前中の Medical English の授業中に日本の医学生同士で予行演習した History Taking と Case Presentation の内容を、夜からの Clinical Practice の授業で JABSOM の先生方及び医学生の皆様に相手を実践練習させて頂きました。患者役の医学生さんに History Taking し鑑別疾患を自分で考え、それを先生方に Presentation するのですが、JABSOM の学生さんと話していると、彼らは鑑別疾患の挙げ方一つをとっても Logical な思考が徹底的に訓練されており、驚きの連続でした。彼らは 1,2 年生のうちに週に 6~10 時間も PBL をするそうです。

Medical Ethics の時間には、1. 尊厳死を患者から求められた時の医師の対応について、2. 将来身体的障害を抱えるリスクのある新生児に対して生存をかけた治療を行うかどうかの決定権は誰にあるのか、3. 児童虐待を行っている母親の避妊手術を本人からの同意なしに医師は行えるのか、の 3 つのテーマについて、ビデオを見て Discussion しました。最終日には、6 つの班各々が 1 つのテーマを担当して、英語で 10~15 分程度の Presentation を行いました。私達の班は当日の明け方まで準備に時間をかけましたが、その過程で、班員との交流を一層深めることができました。また、英語で Presentation をする機会はこれまで多くはなかったので、非常に良い練習ともなりました。

Honolulu 市内の Hospital や Clinic の見学では、アメリカの医療現場を目の当たりにすることができました。

Evening Lecture では、ハワイでご活躍されている日本人の先生方から 3 班に分かれて講義を受けました。アメリカで Residency をする際すぐにでも役に立ちそうな実践的な内容で、これまた大変貴重な経験となりました。

ハワイでご活躍されている日本人の先生方を講師にお迎えした Special Lecture では、アメリカで医師をする際のロールモデルとして非常に参考となるお話を伺うことができました。先生方が渡米した理由や現場で感じられる日米間の医療の違いといった話から始まって、USMLE の勉強の仕方や Recommendation Letter 及び Visa の取得方法、Residency・Fellowship Program 等において高評価を得る為のコツ等、かなり具体的な話を伺うことができました。アメリカの医師教育では積極性が重視され、常に意見や質問をする姿勢が求められるそうです。今回私はプログラム中で常に積極的であろうと努力しましたが、これは帰国後も是非継続して意識していきたいと思います。

その他、この Program で良かったことの 1 つに、JABSOM の医学生の皆様と交流できる時間が非常にたくさんあったことが挙げられます。ハワイという地理的特徴もあってか、現地の学生さんの中には片親が日本人であったり、日本で生活していた経験があったり、と日本語を不自由なく話されるような方も多く、私とアメリカの医学生の差をより現実的なものとして実感することができました。彼らと一生涯の友情を培うことができたのは何よりの財産となりました。

この Program は、対象学年が 5~6 年生と限られていることもあってか、似た興味や目的意識を持って参加されている医学生の方が多く印象を受けました。どの学生さんも非常に優秀で意識が高く、彼らから多くの刺激を受けることもできました。帰国後も切磋琢磨し合える良い仲間に出会えたと思っております。

最後となりましたが、高い評価を得ているこのプログラムに参加できたことを非常に光栄に思っております。帰国後は、このプログラムで学んだことにさらに磨きをかけ、受けた刺激を継続して今後の学びに役立てていきたいと思っております。このプログラムでお世話になった全ての方に、重ね重ねお礼申し上げます。